

新学習指導要領の完全実施を見据えた外国語活動の取り組み

～他者意識を持ちながら、自分の思いを生き生きと表現しようとする児童の育成～

国見町立国見小学校 (代表) 校長 阿部 雅好 教諭 阿部 淳子

1 研究の趣旨

小学校では、新学習指導要領の完全実施が、2020年度に迫り、外国語活動については、今年度より、新学習指導要領の要素を取り入れた外国語活動の実施が、中学年 15 時間以上、高学年 50 時間以上、義務づけられた。特に今年度の 6 年生は、中学 2 年生までは移行期間の中で外国語を学習し、中学 3 年生から新学習指導要領の完全実施となる。高校入試にも関わるので、移行期に新学習指導要領の趣旨に沿った学習をする必要がある。

そこで、本校では、移行期間である今年度から、完全実施時の時間数で外国語活動の学習を行い、十分な時間を確保する中で新学習指導要領のねらいが達成できるようにした。また、新学習指導要領における外国語活動や外国語科の学習では、児童に目的・場面や状況等に応じて、情報を整理させながら考えを形成させ、自分の思いや考えを表現させる活動を充実させることで、主体的・対話的で深い学びが実現するものととらえた。そして、次のような仮説を立て、本主題に迫った。

児童に、教室英語や帯活動で十分に英語の音声に慣れ親しませ、地域や他教科を関連させた状況設定の中で、他者意識を持たせる工夫をすれば、音声で十分に慣れ親しんだ表現がコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現を繰り返す中で獲得されて、自分の思いを生き生きと表現できる児童になるであろう。

2 研究の概要

(1) 完全実施の時数で実践するために

- ① 担任が T1 になって進める毎時間の授業案づくり
- ② 月 1 回の ALT との打ち合わせ
- ③ 研究授業の実施 幼小中連携

(2) 十分に音声に慣れ親しませるために

- ① 教室英語

どの担任も T1 として授業を進めることができるように、毎時間のプランにその時間に使える教室英語を明記する。

- ② 既習事項の意図的な復習を図る授業時間冒頭の帯活動

(3) 目的・場面・状況設定を工夫して他者意識を持たせるために

- ① 他教科との関わり (総合的な学習の時間、社会科)
- ② 地域との関わり (地域施設や特産物を話題にする。)
- ③ 身近な人物との関わり (学校の職員を話題にしたり、伝えたりする。)

(4) 思考・判断・表現をくり返す姿を育むために

- ① ALT との分担による個の活動状況の把握
- ② ふり返りシートの活用

3 成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- ① 毎時間ごとのプランを作ったことで、Unit の中でのねらいを明確にした指導を行うことができた。また、ALT との連携もしやすく、担任が T1 になって授業を進める形が確立した。
- ② 帯活動で、意図的な既習事項の復習を図ったことは、慣れ親しんだ表現を活用する機会を確保するという点で有効だった。
- ③ 地域や身近な人物との関わり等の工夫された状況設定は、相手に伝えたいという思いを育てるのに有効だった。

(2) 今後の課題

- ① 多忙化を解消しながらの年間時間数の確保が難しい。
- ② 移行期間の指導は、児童の実態をとらえて外国語学習の負担感を持たせないようにする。